

国保事業推進トップセミナー

間近に迫った国保制度改革における要点などに対し認識を深める

平成30年1月19日（金）、OKBふれあい会館301会議室において岐阜県と本会の共催により、国保をはじめとする医療保険制度の現状及び今後の展望について一層の認識を深め、国保事業の推進に資することを目的に本セミナーを開催し、市町村長及び国保組合役員等64人が一堂に会しました。

開会にあたり、主催者である岐阜県健康福祉部の森岡久尚部長は、「新たな国保制度への移行まで2ヶ月余りとなった。移行を円滑に進めるため、平成27年度より十数回にわたり市町村と意見交換を重ねてきた。残りわずかな期間ではあるが、引き続き市町村の皆さまとともに着実に準備を進めていきたい」と述べました。

次に、本会の小川敏理事長（大垣市長）は、「国保は地域住民の健康増進に大きく寄与してきたが、財政難や少子高齢化により、平成30年度からは都道府県が財政運営の責任主体となつて国保運営の中心的な役割を担うこととなった。岐阜県においても条例改正が行われ、今後は各市町村で保険料率の設定が行われることとなつており、まさに大詰めを迎えている。本会としては、新制度に向けてシステムを安定稼働させるなど、スムーズな移行に向けて努力していくとともに、審査支払業務の効率化など様々な面において、保険者の連合体

としてしっかりやっていきたい」と述べました。

続いて、「国民健康保険改革の施行に向けて」と題し、厚生労働省保険局国民健康保険課の鳥井陽一課長の基調講演が行われました。

鳥井氏は、昭和33年に施行された現行の国民健康保険法について、法案作りの過程において都道府県への広域化が検討されていたことに触れ、非正規労働者の増加等により60年前より脆弱化した財政基盤や人口減少問題をどうしていくかが今回の改革の意義であると述べられました



基調講演 鳥井陽一氏



特別講演 立川らく朝氏

た。また、改革の概要として、公費による財政支援の拡充や激変緩和措置、保険者努力支援制度等について説明されました。

午後からは、「笑って健康、笑って長生き」と題し、落語家で医学博士の立川らく朝氏の特別講演が行われました。

らく朝氏は、ヘルシートークとして、全ての病気はストレスが原因であると述べられ、「がん細胞は15秒に1個でき、NK細胞（ナチュラルキラー細胞）はがん細胞を攻撃するが、ストレスはNK細胞の活性を落とす。笑いはNK細胞を活性化するので、ぜひ笑ってほしい」と軽妙な語り口で述べられ、その後の健康落語と併せ、会場は笑いの渦に包まれました。

最後に、本会の南山宗之副理事長（坂祝町長）が、「4月からの移行がスムーズに行えるよう各市町村の協力をお願いしたい。また、本日の講演にあった保険者努力支援制度は非常に重要であり、住民の健康増進をすることで保険料も安く済むため、ご協力をお願いしたい」と閉会のあいさつを述べて、全日程を終了しました。